

山行NO NO. 1775  
日時 2017.07.16(日) 晴・高温・稜線風あり  
山域 西丹沢・不老山(928m) 番ヶ平北尾根  
コース 世附川ゲート下駐車場発6:25—世附川橋—世附川ロッジ手前6:38—植林地—自然林—植林地—867m標高点西—一般道・山市場分岐7:53—林道8:03—不老山東峰8:37—西峰8:41~9:20—世附峠9:38—通行止めの昔の道—崩壊地—世附川10:29—駐車場11:15  
標高差 上り 世附川橋約350m~不老山928m=約578m  
下り “  
参加者 GT、KH=2名

## 雪の様な火山砂の山

連休で遠出はなし。かつ、暑いのでロングコースもなし。

こんな時は、普段歩いていない山域探索が良い。西丹沢の不老山は、御殿場線利用が多く、南面の静岡側からの登山がほとんど。

北面に登山道はあるが、車利用でないと行けない。しかも、周遊コースが取れないので面白くない。ではと、ちょっとしたバリエーションから一般道を下る周遊ルートを計画した。



中央が上った尾根



世附川橋

世附川を遡りゲート手前のトイレ・駐車場に車を置く。天気は良い。

少し下り、世附川橋を渡る。左折し世附川ロッジの手前に、「三菱倉庫の森」「富士通エフ・アイ・ピーの森」の看板がある植林地に取り付く。



植林地を上る。杉道はあった。20分ほど上ると自然林になった。

ただ、物凄い急登。モーレツに汗が流れる。

岩混じりの細い尾根は、フィックスロープがあった。下山用だろうか。この傾斜では、ロープがないと厳しい。



イイ尾根が続く

それでも急斜面は、標高650m付近で終わり、再び杉の植林地になった。

しかし、この植林地が曲者だった。全く不思議だが、先ほどまでの岩混じりの尾根でなく、黒いサクサクの火山砂に変わったのだ。

その火山砂は柔らかく、足を乗せると、くるぶしまで潜った。まるで、雪の上を歩いているような感覚だった。お蔭で、足を取られ難儀難儀だった。

やがて頂稜部が切れ稜線に出た。位置は、標高点867mの西だった。

実は今回、山域が決まらず、2万5千図もGPSも持参しなかった。あるのは、エアリア・マップのみ。それでも小さい山だから歩けた。本来、マズイやり方だった。

西へ向かうと一般道に出た。山市場からの一般登山道だった。エリアマップは、山頂まで1時間10分だが、標高差から考えて、そんなに掛かるとは思えない。  
実際は、林道で10分休んだが、44分だった。マップタイムは、やや緩かった。林道には、既に終わったハコネサンショウバラが種をつけていた。



不老山（東峰）

不老山(東峰)着。展望はない。展望が良いのは、この先の西峰。便宜上、東・西峰に分けている。西峰の樹間に富士山の頂稜のみ見えた。山岳ランナーが一人上って来た。聞けば、籠坂峠まで行くという。かなりの距離である。西峰で大休憩。汗が酷くて衣服がビチョビチョだった。下山は、世附峠に降りる。先ほどと同じ、サクサク火山砂が、今度は膝に優しい。林道の峠着。  
例の岩田潤泉（たにいずみ）さんの「作品」あった。帰路、小山駅前を通過したら、家は取り壊されていた。2013年、87歳だったから、もう他界したかも知れない。(?) 10年ほど前、お会いしたが、まだ、意気軒高だった。

<https://www.fujinsha.co.jp/nishitan/iwatanews.html>

<http://www.asyura2.com/09/ishihara13/msg/657.html>

<http://www.yamakei-online.com/journal/detail.php?id=1941> ・ ・ ・ 岩田さん関連のネット



岩田さんの看板



峠には、山道は、「途中崖崩れで歩けない」「世附川の吊橋は流失し使えない」とあった。

今更、何だで、何とかなると無視して下る。

大崩壊地は好天時なら問題ない。世附川は靴を脱いで渡渉した。気持ち良かった。家族連れが川遊びに興じていた。この時期、川遊びは、子供も大人も楽しそうでした。



河童ですか??!!



う～ん、サイコーでっせ!!!